

## 【めむろ未来ミーティング日程 10】

令和8年1月18日（日）

13:30～15:00

■参加者 6人

■芽室町 町長、副町長、教育長、  
魅力創造課参事、環境土木課長、  
政策推進課長

■記録 広報広聴係

### ■対応・検討が必要な事項

①民生委員は広報誌で周知しないのか（健康福祉課）

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項  
資料1 芽室公園 Park-PFI  
資料2 都市公園ストック再編計画について  
資料3 新嵐山スカイパークについて
- 4 意見交換

(1)資料1・2についての意見交換

#### 【参加者】

ビジャーセンターは新嵐山に建つのかと思っていた。芽室公園に建つにしても、新嵐山との関連で、頂上の状況を定点カメラ等で撮影している映像をセンター内で確認できる仕組みを導入してはどうか。

#### 【町長】

ビジャーセンターは誰のための施設かという点で言えば、基本的には日高山脈に入山する登山者などの窓口として位置づけている。当初、新嵐山エリアでビジャーセンターを整備してはどうかという話があったのは事実である。しかし、日高山脈は新嵐山から入れるように見えても、実際には新嵐山側から日高山脈へ直接入山することはできない。入口は大きく3つあり、清水町側、広尾町側、中札内村

に分かれている。

そのため、モンベル等とも相談した結果、新嵐山ではなく、高速道路と国道の結節点でもある芽室公園にビジャーセンターを設け、登山者にはまずここへ立ち寄ってもらい、そこから清水町側などから登山口へ向かってもらう導線が望ましいという提案がまとまった。事業的にもこの整備に乗れる状況となったことから、当該公園内にビジャーセンターを整備することとした。将来的にはガイドの常駐等により、ビジャーセンターを起点に山の案内につなげることも想定している。登山用具についても、モンベルが扱う商品等を含め、不足があればショップで購入してから入山できるような環境づくりをイメージしている。日高山脈は比較的経験者向けの山域であり、初心者が気軽にどんどん登れる山ではないが、「ビジャーセンター」と名付ける以上、日高山脈への入口に向かうための窓口機能を持たせるという考え方で整理している。センター内には休憩や交流スペースも設ける予定であり、登山者に限らず、日常的に一般の町民にも利用してもらえる仕組みとする。

定点カメラの設置については、町として検討していきたい。

また、新嵐山については後ほど触れるが、展望台など、せっかくの地域資源があるため、あのような場所も今後しっかり整備していく必要があると考えている。

#### 【参加者】

新嵐山の展望台について、町外から来た方に「芽室で良い場所はないか」と聞かれ、案内したことがある。展望台自体は良い資源だと思う一方で、トイレの状況が課題である。現在は観光地でもキャンプ場でもトイレが非常にきれいに整備されている例が多い中で、新嵐山のトイレは見劣りてしまい、来訪者の印象にも影響するので改善してもらいたい。

#### 【町長】

後ほど説明する予定でもあったが、新嵐山の展望台については、私としても課題認識を持っている。

展望台自体が古くなっているため、更新や補修を行うことや、座って景色を眺められる場所を整えること、トイレを改善することなど、今後の整備の中で、少なくともこの3点は対応したいと考えている。

また、他会場でもせっかく展望台に行くなら、少し休めたり、お茶でも飲めたりする程度のものがあるとよいという提案を複数いただいている。ただし、展望台周辺は現状、水道が引かれておらず、設備整備には制約がある。実施するとすれば、例えばキッチンカーの活用など、今まで上がって提供できる形を含めて、現実的な方法を考えていきたい。今後、引き続き検討していく。

リフトについても、夏場も展望台まで行けるように利用形態を見直したいと考えている。現在は、基本的にスキー利用を前提としており、展望台へ向かう途中で降りて滑る形になっているが、これを整理し、リフトで展望台まで上がる導線に一本化していきたい。

ただし、夏季の運行は平日を含めて毎日という形ではなく、まずは土日・祝日を中心に、イベント等に合わせながら試行し、利用状況を見ながら進めることを想定している。

## (2)資料3についての意見交換

### 【参加者】

新嵐山の牧場を辞めると聞いたが、そうなると管理のあり方が今後変わってくると思う。歩くスキーのコースが、現状、眺めがあまり良くないので、牧場の方も回れれば良いと思っていた。

### 【町長】

仰ったとおり、新嵐山は現在、夏場は牧場として活用しているが、預ける頭数が減ってきたこともあります、光勇牧場に一本化していく方向で整理している。そうなると、これまで夏場の放牧でJAにお願いしていた管理を、別の主体が担う必要が出てくる。そこで、スキー場を運営している会社に維持管理をお願いし夏場も斜面を含めて活用してもらいたいと考えている。町としては、現在「まちのミライ」という会社にお願いしているが、今後はその会社に通

年の管理委託を行う形を検討している。

夏の利用としては、リフトで上がってもらい、マウンテンバイクで上から下りてくるような取組も考えられる。グラススキーは難しいかもしれないが、夏季も活用できるメニューを検討したい。

加えて、登山や散策の動線についても、安全に十分配慮した上で、現在の遊歩道に限らず、斜面から登れるようなルートの検討余地があると考えている。いただいた意見も踏まえ、夏場の斜面利用を含めて、しっかり検討していきたい。

### 【参加者】

夏場にどれだけ人が集まるのかを含め、利用実態をきちんと調査・検証した上で、事業として「やる・やらない」や実施規模を判断しているのだと思うが、その点は現状どのようになっているのか。

### 【町長】

集客の分析は実施しており、その結果として「この内容であれば実現可能だろう」という判断の下で進めている。経過を説明すると、資料3の中央付近に示しているとおり、これまで段階的に複数の計画を作成してきた。

まず、令和5年度に「新嵐山のあり方の骨格」を策定した。これは、新嵐山株式会社の経営破綻により町民に迷惑をかけたことを踏まえ、今後このエリアにどのような機能を持たせるべきか、基本線を整理したものである。

次に「グランドデザイン」を作成した。これは「新嵐山にこういうものがあったらよい」という機能や施設を一度すべて土俵に載せ、最大限の可能性として何ができるかを示したものである。しかし、財政負担や集客力を踏まえ、実際に実現できる範囲は絞り込む必要がある。そのため、振れる袖の中で実施可能な内容を整理し、今回の「基本計画」に取りまとめた。言い方を変えれば、一度風呂敷は広げたが、現実性を重視して「やめるものはやめる」と整理しながら作ってきたのが実態である。

具体的には、かつて存在した宿泊施設や温浴施設、パークゴルフ場などは、収支や維持費を考えると赤

字化が避けがたく、申し訳ないが断念した。一方で、キャンプは自然の中で行うアウトドアとして魅力があり、継続すべきだと考えた。そこで、平成28年の災害で流失したオートキャンプ場を復活させるなど、集客につながる魅力づくりを行わなければならぬという前提で、町として分析を行い「残すもの」「やめるもの」を整理した結果が今回の計画である。

また、町の負担額は3億5,000万円となっており、見方によっては大きいと受け止められるかもしれないが、当初の計画ではその倍以上の規模・負担額であった。そこから必要な機能に絞り込み、規模を圧縮したのが今回の内容である。計画が成立しないことは責任問題にもなるため、想定される集客人数を見込みながら利用料金等も設定し、現実的に成り立つ形で進めている段階である。

さらに、雨天時等に子どもが遊べる屋内遊戯施設についても検討したが、新嵐山では距離の問題から集客面で厳しいと判断した。そのため、交通の便がよく集客が見込みやすい芽室公園側のPark-PFIの中に屋内遊戯機能を組み込む形とした。以上が、検討と絞り込みの経過である。また、モンベルにはアウトドアを活用した健康増進等の取組に関する知見やノウハウがあるため、こうした知恵もお借りしながら進めていきたいと考えている。ご心配いただき、ありがとうございます。

町としても、財政面・集客面の両方でしっかりと成り立つよう取り組む。ぜひ、オープンした際には足を運んでいただきたい。

#### 【参加者】

若い人であれば足を運べるかもしれないが、年齢を重ねると、行きたくてもなかなか行けない。

#### 【魅力創造課参事】

宿泊施設等があった当時は、送迎バスの運行も行っていた。ただし、当時と状況が異なり、今回の計画では宿泊を実施しないため、配置できるスタッフも最低限になる見込みである。夏場でも雇用人数は5~6人程度を想定している。

また、これまで放牧地だった場所は、牛が草を食べていたため草刈りの手間が少なかったが、今後は職員等で草刈りなどの維持管理を行う必要が出てくる。こうした業務もある中で、運転手を確保して送迎まで担うことは、現時点では難しいと考えている。

#### 【町長】

公共交通やバスの便があれば利用しやすくなるのは事実であり、その点は理解している。まずはオープン後の利用状況や利用者の声を踏まえ、送迎等が可能かどうかを改めて検討していく形になる。

コロナの影響もあったが、経費面で採算を確保できなければ持続的な運営はできず、再び破綻するような事態は避けなければならない。そのため、どうしても収支や費用の管理に意識が向いてしまう部分がある。持続して運営するために、いかに効率的に回していくかを優先して考えると、結果として現状のような判断や形になってしまう。

発想としては、芽室公園が今後、町のランドマーク、象徴となるような大きな施設になる見込みなので、そこと新嵐山をどのように結び付けるかを考えていかなければならない。まちなかも疲弊してきている中で、せっかく芽室公園や新嵐山に来ていただいた来訪者を、どのようにまちなかへ誘導し、経済効果につなげるかも検討が必要である。この点については、商工会や商店会とはすでに意見交換を進めており、アイデアを出し合いながら連携の方向性を探っている。現時点で具体策を断定できる段階ではないが、連携は不可欠だと考えている。

町内で複数の整備を進める以上、点ではなく面として周遊できるよう、ルート化を図れないかという視点も持ちたい。

#### 【参加者】

構想はわかるが、これから先も続けていくには、どれだけ人が来るか、集客がどれだけ見込めるかが一番重要になる。人が来てくれさえすれば、過度に心配する必要はないのかもしれない。

ただ、これまでの新嵐山の経緯を考えると心配に

なるというのが率直な気持ちである。

#### 【参加者】

芽室町民だけでなく、十勝近郊の町村、さらには道外から来た人も呼び込めるような、芽室と言えばというようなピンポイントの目的地が必要だと思う。そこでゆっくりできる場所があるなら、一定の効果は期待できる。管内で道の駅のように人が集まる施設が続けて整備されているのを見ると、国道沿線という立地は強みになり得る。芽室も国道沿いである以上、以前から何とかならないかと感じてきた。私はもともと芽室の出身ではないが、よそから来た立場で見ると、せっかく芽室町に住むなら、もっと外に向けて売り込める場所があつてよいと思う。また、役場の方々から「冬は新嵐山にスキーに行っていた」「いいところだった」という話を聞き、新嵐山が多くの人々に知られていた場所だったことも分かった。近年は温暖化等で降雪量が減り、自然が相手である以上、そこは仕方のない面もある。空港からも近いので、道外から来た人に対しても「飛行機を降りたら芽室に寄ってみよう」と思えるような、楽しめる場所があると良いと思う。芽室には農産物や新鮮な野菜など、誇れるものが多く、私自身も道外に送つて喜ばれている。こうした強みに加え、遊べる施設や滞在できる場所が整えば期待できると思っている。

#### 【町長】

新嵐山については、スキーをしない人やアウトドアに興味がない人からすれば、なくても困らないという意見があるのも事実である。

一方で、令和5年10月の経営破綻後に実施した説明会では、合計7時間ほどにわたり多くの意見をいただいた。スキー関係者の参加が多かった面はあるが、そこで改めて感じたのは、新嵐山は単に芽室町民だけのスキー場ではなく、十勝のスキー場でもあり、帯広から近い立地を生かしてファミリーや初心者も来やすい場所だということである。だからこそ、スキー場としての機能は残していくかなければならない、というのが自分の中の基本認識である。安易に「ただの山」にしてしまうわけにはいかない。

ただし、今後も継続して運営していく責任を考えると、冬だけに頼らず、夏場も収益を確保できる形にしていく必要がある。そこで、夏のアウトドアによる集客や、遊戯施設等の可能性も含めて検討を重ね、その結果として、現実的に実施可能なところで絞り込んだのが今回の計画である。財政負担としても、町としてここまでが限界と整理した上で内容であり、正直厳しさはあるが、ぎりぎりの判断としてまとめたものである。

その上で、指摘のとおり、新嵐山の魅力をどのように発信し、実際に来訪につなげるかが、これから勝負になる。新嵐山は今後も観光の拠点であるという位置付けは変わらないと考えている。心配の声があることも十分理解しているが、そこは町として責任を持ち、しっかり取り組んでいきたい。

#### 【参加者】

夏場については、スキー場の斜面を活用して、たとえば一面にひまわりを植えるなど、花を見せる取組ができるのかと思う。ほかにも、季節の花を一定規模で植栽し、見どころをつくることで、夏でも立ち寄りたくなる場所になるのではないか。

私自身、各地の温泉などにも行くが、温泉地などでひまわり畑や花の景観を見かけると「きれいだ」と思って車を止めたくなる。こうした「思わず立ち寄ってしまうような景色」があれば、夏の新嵐山の利用につながると感じている。そのような取組ができれば、花を目的に観光客が訪れ、観光バスの立ち寄りも期待できる。そうなれば、集客は確実に増えると思う。あわせて現地で食事ができる環境や、ちょっと腰を落ち着けられる場所も整え「来てよかった」「きれいだった」と感じてもらうことも必要ではないか。

#### 【町長】

せっかく整備する以上、景観面も含めてきちんと整えていかなければならない。遊べる施設があるても、周囲が汚いなどの状況では評価されない。周辺環境の維持管理もしっかりと行う必要があると考えている。ご意見として受け止めておきたい。

### 【参加者】

帯広空港から新嵐山は近いので、新嵐山に来てもらって、そこから国道の芽室公園へと誘導するような導線の検討も必要だと思う。

町民の中にはこんなにお金をかけてという意見があると思うが、補助金等により実質負担は少なくできているので、このまま一気に取り進めていくべきと考える。

コロナ禍を契機にキャンプは一時期ブームになつたが、これから10年先を完全に見通すことは難しく、社会のトレンドも変わっていくため、その時々で柔軟に対応できる運営が必要だと思う。モンベルのように知見のある事業者と連携し、作って終わりではなく、改善を重ねながら育していく姿勢が大切だと思う。投資をしなければ人は集まりにくいが、投資の仕方は時代に合わせて更新していく必要がある。たとえば2~3年ごとに見直し・アップデートをかけるといった発想も重要だと思う。

さらに、今の時代は宣伝力、とりわけ動画などデジタルの発信が集客を左右する。若い世代は情報を短時間で把握し、行くかどうかを決める。だからこそ、知識のある人材やつながりを上手に活用し、発信の質を高めて、1人でも2人でも多く呼び込めるようにすることが、長く続ける上で欠かせないと感じている。

### 【町長】

オカモトやモンベルのように十分なノウハウを持つ方々と、せっかくこうして繋がりができている以上、その知見やアイデアを活用させていただくことが、時代に合った取組にしていく上で最も有効だと考えている。行政だけで考えていると発想が硬直し、良い方法にたどり着けないことも少なくない。その意味でも、民間の活力を生かしながら進めていきたい。

また、空港からの導線についての指摘もそのとおりである。いわゆるインバウンドで空港が人で溢れ返るといった状況を前提にしているわけではないが、道外からの来訪者を含め、空港を起点とした導

線をどう組み立てるかは非常に重要な視点であり、参考にさせていただきたい。

加えて、時代のニーズに合わせて施設の内容を見直すこと、周知や広報のやり方を見直すことなど、柔軟に運営していくべきだという趣旨だと受け止めている。動画等を活用した宣伝力の向上も含め、指摘はもっともあり大変参考になる。

町だけで抱え込むのではなく、民間の皆様や事業者とも連携しながら、ともに考え、改善を重ねていきたい。

### (3) その他の意見交換

#### 【参加者】

挨拶の中でお金の話が出ていたが、物価高騰対策について伺う。新聞でも話題になっていたが、池田町では1人1万円のプレミアム商品券を発行することでまた、豊頃町でも同様の取組があると聞いている。芽室町でも以前、1万円で1万2,000円分程度の商品券を発行したことがあったと思うが、今回も同様のプレミアム商品券等を実施する計画はあるのか。

#### 【町長】

芽室町では現在Mカードを活用した対策を検討している。Mカードは登録しないと使えないものと思われるがちだが、実際にはプリペイドカードとして、カードを持っていれば誰でも現金と同じように使える仕組みがある。

この仕組みを使い、町民全員に1人3,000円分を配付する案を考えている。財源については、全国的にお米券等で話題になった財源を活用し、芽室町ではお米ではなく、町内事業者で使える形にする考えである。Mカードに登録している店舗であれば使用でき、コンビニでも利用可能である。あわせて、すでにMカードに登録している人には、10%還元などの施策も検討している。現時点では、これが物価高騰対策の柱であり、実施時期は4月以降を想定している。

#### 【参加者】

新嵐山や芽室公園の整備などの話はあるが、芽室町には現在、公衆浴場がない状況である。以前は川北温泉や鳳の舞などがあったが、今はなくなっている。

一方で、芽室町より人口の少ない町でも、公衆浴場が残っており、一般的な入浴料より安い300円や400円で利用できるところもあると聞いている。人口規模が小さくても浴場を維持し、町民の利便性を考えている自治体があるのは事実である。

芽室町でも、公衆浴場があれば高齢者を中心に利用する人は多いと思う。現状では、公衆浴場に入ろうとすると帯広まで行かなければならず、不便さがある。こうした状況を踏まえ、公衆浴場の整備について、現時点で何らかの計画はあるのか。

#### 【町長】

鳳の舞が無くなってしまった以降、公衆浴場や温浴施設を何とかしてほしいという要望は、ここ5年ほど継続して受けている。私としても、まちなか再生の取組の中で、まちなかのどこかに温浴施設を確保したいと考えている。

ただし、町が直営で整備・運営するのではなく、民間に担っていただく形を想定しており、その前提で事業者と交渉しているのは事実である。とはいえる、条件面などさまざまな事情があり、現時点では前に進んでいない。温浴施設の確保は、大きな課題として認識している。具体的な内容は今この場では述べられないが、水面下での調整は進めている。

町が直営で公衆浴場を運営するとなると、経費的に採算が合いにくく、町の負担が相当増えて赤字になりやすい。一般的に入浴料金は500円程度が相場であり、その料金水準の中で直営に踏み込む判断は、正直なところ現時点では考えていない。

ただし、支援についてはこれまで行ってきた経過があり、以前も年間500万円程度を拠出して支えていた。こうした規模の負担であれば、町として一定の支援はあり得ると考えている。課題は実際に運営してくれる事業者がいるかどうかである。その点について、現在いろいろと交渉を進めている。

#### 【参加者】

町内会の負担金について。町内会に加入している世帯では、社会福祉協議会や消防関係の負担があり、半ば強制的に徴収されているような形になっている。

一方で、広報誌を見ると町内会加入率は50%程度であり、約半分の世帯は町内会に加入していない。結果として、負担金は町内会に加入している世帯だけが納め、未加入世帯は負担していない構図になっている。この点は公平性の面で課題があると感じる。国からの交付金等も含めた財源の中で精査し、町の財源で負担する形にできれば、町民全体で支えることになり、公平性が高まるのではないか。現在は、町内会に加入している世帯だけが毎年負担を求められている状況であり、重い負担になっている。物価高騰の影響で町内会活動の運営も厳しくなっている。

こうした実情を踏まえ、町内会に加入している世帯の負担を少しでも軽減する仕組みを検討してほしい。最低限でも任意にならないか。

市街地町内会連合会からも申出をしたという話は聞いているが、消防をはじめ、社会福祉協議会など、町とも密接な関係があるため、町からも町内会の事情や現状等を説明してもらいたい。

町内会加入者のみ払うということには不公平感を感じている。

#### 【町長】

数年前から同様の話はさまざまな会場で聞いており、今回も市街地の会場ではこの話題が出ている。午前中の別会場でも、全く同じ趣旨の意見をいただいたところである。

かつては町内会の加入率が高く、皆で助け合いながら頑張っていこうという空気の中で、町内会費から1世帯いくらといった形で負担することに、一定の公平感があった。しかし、加入率が半分程度にまで下がってしまうと、指摘のとおり不公平感が生じるのは当然であり、私自身もそのように感じている。

すぐに解決できるかは分からないが、社会福祉協議会や消防団の活動に関わる負担のあり方について、今後どのように徴収していくのか検討は必要である。負担がゼロになれば活動が成り立ちにくくな

る面もあるが、検討に入らなければならないと考えている。ご意見として受け止め、いったん持ち帰り、しっかり検討する。

### 【参加者】

以前、農協で旅行会のような取組があったが、コロナ禍の影響でなくなり、現在も再開していない。年齢を重ねると、旅行に行きたくても個人で行くのはハードルが高い場合があるため、芽室町としても、年1回でもよいので旅行会のような企画を実施してもらえないか。

次に、美生川パークゴルフ場についてである。利用者は多いと思うが、真夏は暑さが厳しいため、長い目で見て、コース端などに木を植える、桜など季節を感じられる樹木を植えるといった整備ができるか。冬は雪が積もることもあるが、暑さ対策として日陰づくりを検討してほしい。

最後に、役場から貸与されているラジオの放送についてである。午後5時のチャイムが鳴った後、ただ音が鳴って切れるだけではなく、録音で流しているのであれば、たとえば火災への注意喚起などの一言、あるいは「おやすみなさい」といった短い言葉でもよいので添えてほしい。そうすることで、町民にとって親しみが増すのではないかと感じている。

### 【町長】

町が旅行会を一つの事業として企画し、皆で旅行に行きましょうという形で実施するのは、目的設定の面でなかなか難しい面があると思う。例えば、日本ハムファイターズの観戦ツアーのように明確なテーマを企画してという形であれば成り立ちやすいが、旅行そのものをするのは難しい。

一方で、目的を持たせた企画であれば、すでに取組の例はある。例えば農業分野では、地産地消バスツアーを実施しており、私自身も担当として関わっていた。教育委員会などでも、趣旨や目的を明確にした事業として行う余地はあるかもしれない。

要望の趣旨、外出や交流の機会が欲しいという気持ちはよく理解した。

### 【参加者】

町内会について、メリット・デメリットが十分に理解されていない面があるのでないかと感じている。特に若い世代は共働きが多く忙しいため、町内会活動に关心を向けたり、目的意識を持って関わったりする余裕が持ちにくい。時代の流れとして、そうなってしまう部分もあると思う。

一方で、町内会には「隣近所の見守り」や「一人暮らしの方への声かけ」といった大事な役割がある。民生委員をやっているが、国勢調査の際も、状況が見えにくいケースがあり、例えば「昨年12月に夫が亡くなってしまった一人暮らしになった」といった事情も、把握しきれないことがある。こうした中でも、町内会に加入し「町内会の一員である」という位置づけがあること自体が、地域とのつながりを保つ一つの支えになる。

また、老人クラブなどが無い、比較的新しい町内会だが、一人暮らしの方は複数いる。外に出る機会や交流の場を意識して作っていかなければ、今後、孤立が深まるケースが増えていく懸念がある。孤独死に至らないとしても、地域のつながりが弱くなることは大きな課題であり、近所同士の声かけや見守りの重要性はこれからさらに高まっていくと思うので、何か良い方法はないかと思っている。

### 【町長】

民生委員の立場としても、今は難しい時代になったと思う。役場としても、町内会を通じて把握するだけではなく、どのような状況で暮らしているのか等を、役場全体として把握していかなければならぬ状況になってきている。民生委員にお願いするにしても、極端に言えば「なぜ私のところに来たのか」と受け止められ、訪問 자체を嫌がされることもあり得る。そこが難しい点である。時代と言ってしまえばそれまでだが、行政としてもプライバシーにどこまで踏み込めるかが非常に難しい時代になっているが、町としての責任もある。孤独死などが起きてしまうのも望ましくないため、保健師などを中心に訪問等を行い、必要な範囲で状況を把握する取組を進めている。あわせて、民生委員の力も借りながら、

地域の見守りにつなげていくことが重要だと考えている。

町が今目指しているのは、地域包括ケアシステムというものの、保健、医療、福祉、住まい、さらには住民参加などを含め、地域全体が一体となって支え合い、関わるような仕組みをつくっていくという考え方であり、壮大な目標ではあるが、その方向に向かって取組を進めている。

その動きの中で、仰るように、身近にいる人同士が連携しながら支えていくことが重要なポイントになる。町としても、地域のつながりを生かしながら、見守りや支援につながる体制づくりを進めていきたい。

先ほどの美生川パークゴルフ場は河川敷地であるため、植林などは基本的に制約が大きいと考えられる。堤防の上であればまだ可能性はあるが、当該箇所は堤防の下の河川敷であり、パークゴルフ場として借用して使用している性格の場所である。

簡易な小屋のような施設も設置されているため、一概に全てが不可というわけではない可能性もある。ただし、河川敷は原則として治水や維持管理の観点が優先されるため、仮に何かを設置・植栽するにしても、現状復帰が可能な範囲など条件付きでの整理が必要である。

個別端末に関して、以前災害時に「避難所へ逃げてください」といった内容を町長の肉声を録音して流すことができないのかと考えたことがあるが、システム的にできないと言われた経緯がある。文字を音声に変換してコンピューター音声で流す仕組みであり、録音した肉声をそのまま放送することは、現行システム上難しい。意見として受け止め、可能性を含めて検討していく。

#### 【参加者】

①昨年12月に民生委員が変わったが、広報に載っていないので自分の町内は誰が担当なのかわからない。広報誌に載せないのか。

#### 【町長】

確認して掲載できるのであれば掲載したい。

#### 【参加者】

合同納骨塚について、決まり次第広報誌でお知らせすると聞いていたが、もう大体決まっているのか。

#### 【環境土木課長】

施設は令和7年12月に完成しており、場所は、芽室霊園の南西側の角付近に整備済みである。運用については現在、細部のルール等を詰めている段階で、現時点では5月頃に募集を開始できればという状況である。

基本的には、芽室町にゆかりのある方に申請していただき利用してもらうことを想定している。運用の詳細については、決まり次第、改めて周知し、広報誌にも掲載する。

15時00分終了

